須坂市立墨坂中学校だより　　令和6年11月15日（金）

立て心よ　行け私よ　No. 8

【問題解決力】　【他者関係力】　【自己更新力】

文責：中村 文成

校長講話 「後期人権教育月間によせて　♪立て心よ　行けあなたよ　～優しさのスパイラル～」

墨坂祭、一人一人ひとりが輝き、クラス、学年、そして墨坂中が「Time　to　Shine～人生で一番輝く時～」を具体的な姿で示すことができましたね。

ここに示した写真を見てください。何をしている姿ですか？

そうですね。仲間を応援している姿ですね。上田先生も応援していますね。来週から、後期人権教育月間が始まります。

今日は小さい頃聞いたお話で、今改めて考えさせられるお話です。皆さんももしかしたら絵本を読んだり、小学校の時の校長講話や担任の先生から聞いたりしたことがあるかもしれません。

地獄は針の山や血の池などがある恐ろしいところです。その反対にある所、そう「天国」ですね。「極楽」とも言います。今日は「地獄と極楽」というお話を紹介します。

ある人が地獄に案内されました。そこにはテーブルがあり、その上にはおいしそうなごちそうがたくさんありました。そのテーブルについている人々を見ると、骨と皮だけで、目はギラギラと恐ろしい顔つきをしていました。どうしてかというと、その人々は体を椅子に縛り付けられていて、片手には長い箸が縛り付けられ、もう片方の手は体に縛り付けられているのでした。テーブルの上のおいしそうなごちそうを食べたいけど、思うようにならず、焦れば焦るほど怖い顔になっていくのでした。【右側の写真のように、模造紙で作った“お箸”で実演しています】

次に案内されたところは「極楽」です。極楽も地獄と同じようにテーブルについて、同じように箸を縛り付けられている人たちがいました。しかし、そこに座っている人々は太っていてとても楽しそうな顔つきをしていました。なぜかというと、極楽の人々はその長い箸を使って反対側の人にごちそうを食べさせてやっていたからなのです。自分が食べようとするより、相手に食べさせてあげていたのです。人に親切にすれば、次は人から親切にされるのですね。「与えれば　与えられる」ですね。

「与えれば　与えられる」に関する事実を二つお話しします

2011 年の東日本大震災の時、大きな津波が東北地方を襲いました。その津波で、岩手県久慈市の久慈漁協の 600 隻以上の漁船が全部海に沈んでしまいました。ですが、その漁協に北海道の函館市にある５つの漁協の漁師さん達が中古ではあるが、

２２８隻の漁船を贈ったのです。
　それらの船を運ぶ台船には「がんばれ東北！！　がんばれ久慈！！」の横断幕。漁船集めに尽力した方は「漁師にとって船は命。同じ漁師として、何かしたいという思いが集まった。みんなの思いを込めて贈りたいです」と話しました。
　実を言いますと、函館市によると「77 年前の恩返し」だったのです。昭和９（１９３４）年の函館大火の恩返しでだったのです。その大火で 2800 人余りの死者・行方不明者が出た際、函館には久慈など岩手各地から義援金が贈られたのです。「そんな昔の話、こちらで覚えている人はほとんどいないのに。ありがたい」と久慈市漁協の方は驚きながらも喜びました。

　もう一つは日本でなく世界で起きたことです。今から 130 年以上前の 1890 年、トルコという国のエルトゥールル号という船が日本の近くで台風に遭い、多くの乗組員が船から投げ出されてしまいました。その中の何人かが、和歌山県串本町の海岸に打ち上げられました。そこの人々は、その打ち上げられたトルコの人々に食べ物や着る物を与えて助けてやりました。600 人の乗組員の内 70 人ほどの命が助けられました。そのことをトルコの人々は語り継いで、忘れていなかったのです。
　そして、今から 40 年ほど前の 1985 年、イラクとイランという国で戦争が始まりました。イラクの大統領が「今から 48 時間後に、イランの上空を飛ぶ飛行機は全て打ち落とす」と言いました。世界の国々はイランにいる自分の国民を 48 時間以内にイランから出国させようとしました。日本もそうしようとしましたが、遠い国だったので、すぐには対応できませんでした。215 人ものイランにいる日本人を救い出すことは不可能と思われました。しかし、そこに２機の飛行機が飛んできました。それはトルコの飛行機だったのです。そして、すべての日本人がイランを脱出することができました。タイムリミットの１時間前だったそうです。トルコの人々は 100 年も前のことを覚えていてくれたのでした。後に駐日トルコ大使は、次のように語っています。「エルトゥールル号の事故に際して、日本人がなしてくださった献身的な救助活動を、今もトルコの人たちは忘れていません。私も小学生の頃、歴史の教科書で学びました。トルコでは子どもたちでさえ、エルトゥールル号の事を知っています。今の日本人が知らないだけです。それで、イランで困っている日本人を助けようと、トルコ航空機が飛んだのです。」と。

　最後に３年生の学級通信に載っていた日記からです。
「今日のゲームフェスタでは、大縄の時に緊張しすぎて、終始、心臓がはち切れそうでした。 途中、引っかかってしまって、負けてしまいました。 悔しいより、『ごめん』の気持ちが大きかったけれど、 皆が前向きで『次があるから・・』 と言っていて、自分ももじもじしていないでいい結果になるように頑張ろうと思いました。皆の優しさのお陰でいい思い出で終わりました。クラスの皆といる空間は、いつも心地よくて、墨坂祭でも皆の何気ない優しさに感謝することがたくさんありました。私のクラスは墨中の中でもトップクラスで男女の仲も良いクラスだと言える

自信があります。私はそんなクラスで過ごす、温かい皆との時間が好きです。卒業まであと半年しかないのはさみしいけれど、最後の最後までよい思い出を作り続けたいです。」

学校教育目標は、墨坂中だけの合唱曲「立て心よ」からいただいた「立て心よ　行け私よ」です。その２番の歌詞に「立て心よ　行けあなたよ」と歌われています。友に対して互いに優しさや応援やエールをやりとりすることで、心や毎日の生活が優しくなり、豊かになりますね。

以上で終わります。

（学級通信より）

〇校長講話がありました。「立て心よ」の歌の２番が「立て心よ　行けあなたよ」となっていることを初めて知りました。一人でやるんじゃなく、みんなで助け合うことも大事だと思いました。

〇「地獄と極楽」というお話を聞きました。内容は、長い箸をもってご飯を食べるというのは地獄も極楽も変わらないのですが、地獄は一人で食べようとしていて、当然食べられませんでした。でも極楽は、隣の人同士に食べさせています。僕も助け合いの精神を忘れないようにしたいです。

〇初めて聞くお話ですごく良いお話だと思いました。私も自分中心ということではなく、相手のことを考え行動していきたいと思いました。そういう人が増えれば優しい世界になるのかなと思いました。

須坂市内中学校卒業学年親善音楽会　　墨中生ここにあり！

１０月１１日（金）、メセナホールで須坂市内中学校卒業学年親善音楽会が行われました。「校歌」と「立て心よ」、「フィンランディア」の３曲を歌いました。以下は、講師の小林雅彦先生（須坂市前教育長で、３代前の校長先生）から３年生に向けて直接お話していただいたお話です。

「大人になったねぇ。冬と比べて、声が俄然進歩した。精神的に大人に近づいていることがよくわかった。

見事です。素晴らしい。それ以上、言うことがない。

『立て心よ』は、こちらの心が立ち上がりたくなる。

『フィンランディア』。フィンランドの人は当時、演奏してはいけないというロシアからの命令があった。歌うなと言われた。この曲を歌うと、フィンランドの人は自分の国をつくりたいという思いで、胸がいっぱいになるんです。この曲を聞いたあとは、なかなか帰らない。でも禁じられているから、曲名を変えてプログラムに載せ、実際に歌った。第二国歌です。むかし、私がこの歌をやったとき、フィンランド大使館から、『歌ってくれてありがとう』という手紙がきました。歌の力です。

これだけの大人数が声を合わせるのは容易ではない。顔で歌っている。自分の歌として表現していた。声の力は人を突き動かす。動かなかったものが、動く。私は、心からの叫びのような音楽を聴いて耳から離れない。卒業までに下級生にしっかり残してください。」

墨坂中学校 HP「校長室から」１０／１５の回から学年合唱をダウンロードして聞くことができますので、ぜひご利用ください。

日常から

【３年生放課後学習】学習ボランティアの禰宜田さんと松野さんに教えていただいています。

【３年４組総合】１年間、防災をテーマに取り組んでいます。この日は、消防署の方に来ていただいて AED 講習を受講。

【１年４組国語 授業公開】「蓬莱の玉の枝」音読し、個人とグループによる追究を積極的に行いました。

【２年生技術】風車を作って回し、エネルギー変換について学びます。風車の形状や大きさが異なると得られる電圧が３倍も違いました。

【２年生体育】遠足の途中で休憩のために寄った井上小学校１年生のみなさんが、一生懸命に走る２年生を応援。「がんばれー！！」の声が響きました。

【教室訪問】来年度の正副会長候補者と推薦責任者が教室訪問をして、自分の考えを訴えました。３年生から生徒会のバトンが引き継がれます。